

化学系

有機化学

全合成、アミノ酸・ペプチド

微生物と人間のタッグでマラリアと戦う！

〔北里大院感染制御〕 林 裕美

世界三大感染症のマラリアは、流行地域の拡大や既存薬に対する耐性原虫の出現により、特に熱帯・亜熱帯地域の人々にとって脅威です。北里大学の太田グループでは独自の活性評価系を利用し、微生物の代謝産物から抗マラリア活性天然物を探索しています。今回、珍しいハイブリッド型構造の新規抗マラリア活性化合物を単離し、新しいマラリア薬創製に向けた実用的全合成を達成しました。

22L-pm19S

新規抗マラリア活性リポペプチド Kozupeptin A の実用的全合成
および絶対立体構造の決定

化学系

有機化学

反応、上記以外の芳香族化合物

穴の開いたフラレンを触媒で識別

〔京大院薬〕 榎藤 匠洋

化粧品や太陽電池等に利用されるフラレンC60はサッカーボール型の対称性の高い構造です。分子手術でこのフラレンに穴を開けると対称性が崩れ、開口部の構造に依存したフラレン特有の立体構造を持つ分子となります。今回、独自に開発した触媒を用いて、未知の光学材料としての応用が期待される開口フラレンの立体構造を、世界で初めて効率的に識別することに成功しました。

23L-am05S

特異なキラリティを有するラセミ体開口フラレンの
触媒的速度論的光学分割

化学系

有機化学

反応、上記以外の脂肪族化合物

ハイブリッド触媒で分子の立体を自在に作る

〔東大院薬〕 陳 虹宇

医薬品合成において、複数の立体中心を同時に制御しながら分子を構築する手法が望まれています。私たちは、独立した機能を持つ二つの触媒をハイブリッドしたシステムを用い、連続する二つの立体中心を持つ分子を作り分ける反応を開発しました。本手法では、生物活性分子に多く含まれる様々な構造のカルボン酸を思い通りに合成することができ、医薬品のクリーンで迅速な供給につながります。

23M-am11S

Stereodivergent Synthesis of α -Allyl Carboxylic Acids by Boron-Iridium Hybrid Catalysis

化学系

有機化学

構造と物性、核酸類

細胞膜をスリりと通過するオリゴ核酸エムポン

〔名大院理〕 川口 紗貴

オリゴ核酸は医薬品としての可能性が期待されています。しかしながら、多数の負電荷を有する高分子であるオリゴ核酸は細胞膜を透過しません。私たちは、細胞膜を透過することができる低分子を修飾したオリゴ核酸（エムポン）を開発しました。エムポンは細胞に振りかけると約10分で細胞質に到達し、医薬効果を示すことが明らかになりました。

23L-pm04S

膜透過性オリゴ核酸の開発

化学系

有機化学

構造と物性、ヘテロ原子化合物(有機リン・硫黄化合物等を含む)

史上最強の酸を目指して!

〔東大院薬〕 渡部 衛

塩酸、硝酸、硫酸など最強の酸をつくる研究は、最も歴史ある研究の一つです。今回紹介するカルボラン酸はReed教授らによって開発され、数十年ぶりに最強の酸の座を奪った正二十面体構造からなる美しい分子です(濃硫酸の100万倍以上!)。私たちは、最先端合成化学と計算化学の融合により、2つのカルボラン酸を「ダンベル型」「クラッカー型」に合体させた新しい酸の開発に成功しました。

21M-pm10S

カルボランアニオンの二量化による新規弱配位性アニオン種の創製とその機能評価

化学系

生薬学・天然物化学

遺伝子・生合成

大腸がんは、とある大腸菌の感染症!?

〔静岡県大薬〕 平山 裕一郎

人の大腸の中に存在する大腸菌の一部は「コリバクチン」と呼ばれる毒性物質を生産しており、これが大腸がんの原因物質ではないかと推測されています。しかしこのコリバクチンは微量かつ不安定で、未だ検出ができていません。私たちはこのコリバクチンを作る大腸菌を簡単に見つける方法を確認し、見出した大腸菌から初めてコリバクチンに関連する物質を見つけることに成功しました。

21R-pm18

大腸がんリスク因子物質コリバクチン関連化合物の特定

化学系

生薬学・天然物化学

資源探索

AIが予測するアロマオイルの組合せ作用

〔和工技セ〕 藪内 弘昭

異なる種類のアロマオイル（精油）が組み合わさることで、生物に対する作用が強まったり弱まったりすることが経験的に知られています。この研究では、抗菌作用について、植物の分類や成分のデータを人工知能（AI）に学習させ、2精油間の組合せ作用を予測する手法を開発しました。この研究成果は、科学的根拠に基づく処方最適化に貢献すると期待されます。

22PO-am074

抗菌活性における精油間相互作用の予測手法の開発

化学系

生薬学・天然物化学

品質評価・定性・定量

竹田産サフランのブランド力：香りと伝統知

〔阪大院薬〕 家入 啓至

日本最大サフラン産地・大分県竹田市が独自に確立した室内栽培は土地利用効率100%で、連作障害が回避できる世界に類のない篤農技術です。特に、竹田ブランドサフランは匂い嗅ぎ付GC-olfactometry測定と官能試験を統合した新規方法で評価する香り特性から、国際市場の大半を占めるイラン産と品質の差別化ができます。伝統知の可視化で地域振興につなぐ継承を紹介します。

220-pm16

大分県竹田市のサフラン栽培：伝統知が育む香り特性品質

化学系

医薬化学

医薬品設計

右手型サリドマイド：安全な抗がん薬に期待

〔名工大院工〕 徳永 恵津子

サリドマイドを抗がん薬として使用する際、奇形児が生まれる危険性があります。サリドマイドには右手型と左手型があり、左手型が催奇形性を持つためです。右手型だけを使用しても体内で左手型との混合物に変化するため、危険性は同等です。しかし、私たちは、自己不均一化という現象を用いれば、混合物になっても奇形を回避できる可能性を見つけました。安全なサリドマイド薬開発に前進です。

22T-am06

サリドマイドパラドックスを解明
～鏡像異性体を持つ医薬品の使用に警鐘～

化学系

医薬化学

天然物・生体由来医薬品

桜の花エキスによる美白を目指して

〔星薬大〕 守谷 友里恵

美白効果をもつ天然物由来成分は、低刺激性が期待できるなど、化粧品開発において高いニーズがあります。私たちは新たに、身近な存在である桜の花のエキスによる美白効果を調べました。低温真空抽出法により得られた桜の花セルエキストラクトは、培養細胞に対してメラニン生合成抑制効果とチロシナーゼ活性阻害効果を示しました。作用機序を明らかにして、桜由来成分を用いる美白化粧品への応用を考えています。

21PO-pm100

低温真空抽出法によるさくらセルエキストラクトの美白効果について

物理系

物理化学・生物物理

機能性高分子

低分子医薬品を輝かせる、小さな粒子

〔静岡県大薬〕 増田 彩香

糖は、単糖に分解されてはじめて消化管から吸収されます。糖尿病治療薬の α -グルコシダーゼ阻害剤は、二糖の分解を阻害することで、食後の急激な血糖値上昇を抑制します。私たちは、 α -グルコシダーゼ阻害剤をナノサイズの粒子に組み込むことで、その阻害作用が強まることを見出しました。本技術を様々な医薬品に応用することで、ナノ医薬品の開発を行っていきます。

23R-pm01S

糖尿病治療に向けた α -glucosidase吸着ポリマーナノ粒子の開発

物理系

物理化学・生物物理

製剤物理化学

フィルム型振動センサーによる造粒工程追跡

〔武蔵野大薬〕 武井 廉

近年、次世代型医薬品製造として、医薬品の製造工程をリアルタイムにモニタリングすることで、複数の工程を連続化・自動化することが注目されています。本研究では、フィルムの変形にともなう圧力を電圧に変換するピエゾ素子を用い、医薬品顆粒の造粒工程を追跡することで、ピエゾ素子によるモニタリングの可能性について検討すると同時に、どのように粒子が成長するのかを明らかにしました。

22PO-am165

ピエゾフィルム振動センサーを用いた高速攪拌造粒のインラインモニタリング

物理系

分析化学

その他

新規ストラテジーにより認知症治療薬を創る

〔摂南大薬〕 小西 元美

アミロイドβを加水分解するセリンプロテアーゼ様の短鎖ペプチドは、世界初の、認知症治療薬になりうるペプチドです。私たちはコンピューターシミュレーションにより酵素耐性や膜透過性が高く、臨床応用可能なペプチド性医薬品の作成を目指しています。

23PO-am213

βアミロイドペプチドを加水分解する5残基ペプチドのドッキングシミュレーション

物理系

放射化学

放射性医薬品

認知症の異常を正確に映し出すには？

〔京大院薬〕 垂水 勇太

高齢化が進む現代社会において、アルツハイマー病などの認知症患者の増加は大きな社会問題であり、その診断、治療法の確立が求められています。私たちは、アルツハイマー病患者の脳内に蓄積するタウ凝集体に着目し、それを画像化するためのツールとして新しい放射性プローブを開発しました。このプローブは、アルツハイマー病の早期診断や治療薬開発に大きく貢献することが期待されます。

23PO-pm108

アルツハイマー病脳内タウのPETイメージングを目的とした¹⁸F標識ベンゾイミダゾピリジン誘導体の構造活性動態相関

生物系

生物化学

生体膜・オルガネラ・物質輸送

実験用血液脳関門モデルに必要な細胞？

〔国立衛研〕 最上 由香里

血液脳関門 (Blood brain barrier (BBB)) は強固に脳を守っていますが、実験室での実験用で新薬開発に有用なモデルはまだありません。私たちは、病態BBBにおいて、脳の環境センサーを担うミクログリアがBBB構成細胞と相互作用し、サイトカインを制御することでBBB強度を大きく変動させることを明らかとしました。実験用BBBモデルにおけるミクログリアの重要性を示唆する結果です。

22PO-am216

病態を考慮した血液脳関門・生体模倣システムの開発

生物系

生物化学

細胞内情報伝達

より良い抗がん剤の創出、選択のために

〔京大院薬〕 吉川 侑樹

タンパク質のリン酸化は多くの細胞機能に関与しており、リン酸化酵素であるキナーゼの異常はがんの発症や進行の一因と考えられています。キナーゼを標的とした抗がん剤が多く開発されていますが、それらの作用は完全には解明されていません。本研究では、質量分析計を用いて細胞内のすべてのタンパク質のリン酸化状態を包括して測定する手法を開発し、抗がん剤作用評価に応用しました。

22H-pm13S

キナーゼ収斂リン酸化プロテオミクスを用いた分子標的薬
プロファイリング

生物系

生物化学

ストレス

培養ガス圧は脂肪分化の調節因子!?

〔徳島大薬〕 土橋 有希

脂肪細胞の分化誘導制御は難病指定されている脂肪萎縮症の治療に必要な脂肪組織移植の鍵となる重要な技術です。脂肪細胞の分化誘導制御法の開発を目指し、今回、加圧環境下で脂肪細胞の分化と脂肪蓄積が抑制されることを発見しました。つまり、培養ガス圧の調節で脂肪細胞分化を制御できる可能性を見出しました。さらに私たちは加圧環境下での分化誘導メカニズムの解明に挑戦しています。

23P-am04S

加圧培養環境下における3T3-L1細胞分化誘導への影響

生物系

薬理学

中枢神経系(機能)

光で解明!モチベーションを高める脳の活動

〔東大院薬〕 人羅(今村) 菜津子

嫌なことがあるとやる気が出なくて、行動を起こせない。多くの人が経験したことがあるのではないのでしょうか。私たちは、マウスが困難を乗り越えて行動を起こす時に活性化する神経回路を発見しました。さらに、光を使って神経回路を活性化することにより、行動を起こすことを後押しできることを明らかにしました。この研究成果は、うつ病などの精神疾患の病態理解に繋がると期待されます。

21PO-am117

内側前頭前皮質
—中脳水道周囲灰白質経路による葛藤環境での行動制御機構

生物系

薬理学

内分泌・代謝系

コレステロールの代謝制御でリンパ腫治療

〔熊本大院医〕 潘 程

私たちは、悪性リンパ腫細胞ではコレステロール (Chol) 代謝経路においてLDLRからのChol取り込み、ACATによるCholのエステル化、SR-BIによるCholの排泄経路が亢進していることを発見しました。また、スタチンやACAT阻害剤、SR-BI阻害剤は細胞内Cholを過剰蓄積することで細胞増殖を抑制しました。ゆえに、これら阻害剤は悪性リンパ腫の新たな治療戦略になり得ます。

23PO-pm153

標的分子の異なるコレステロール代謝阻害剤の併用による
高悪性度リンパ腫の新たな治療戦略

生物系

薬理学

平滑筋・骨格筋

ぜんそく発作の根本的原因にせまる!

〔星薬大〕 宮川 結衣

近年、いわゆる喘息死は減少傾向にあるものの、未だ多くの喘息患者が発作に苦しんでいます。患者の気道は過敏で、わずかな刺激でも過剰に気管支が収縮し、激しい発作につながります。本研究では、気道局所のアレルギー反応によりある種の「ガラクタRNA」の量が増加し、過剰な収縮をもたらされることを明らかにしました。ステロイド剤に代わる新たな治療薬開発への貢献が期待されます。

210-pm19S

アレルギー性喘息時の気管支平滑筋過敏性形成における
miR-140-3pの役割

生物系

微生物学

抗菌薬・抗ウイルス薬・抗真菌薬

特殊環状ペプチドでウイルスの侵入を防ぐ!

〔国立感染研/明治薬大〕 深野 顕人

B型肝炎ウイルスの肝細胞侵入に必須の受容体が近年発見され、新しい創薬の標的として注目されています。しかし、これまでに報告された殆どの侵入阻害化合物は、受容体本来の機能も阻害するため、副作用が懸念されます。私たちはその問題を解決し、ウイルス感染を選択的に阻害する特殊環状ペプチドを発見しました。この成果から、優れた新規B型肝炎治療薬の開発が大いに期待できます。

21N-pm17S

NTCP/SLC10A1の胆汁酸取り込み機能に影響しない
選択的B型肝炎ウイルス侵入阻害ペプチドの同定

環境・衛生系

衛生化学・公衆衛生学

機能性食品

「もち麦の食習慣」は健康寿命に好影響!?

〔サッポロホールディングス〕 清水 千賀子

大麦には血中LDL-コレステロールを低下させる、内臓脂肪を低減させる、食後血糖値の上昇を穏やかにする等の効果が知られています。本報告は、もち性大麦「もっちりぼし」を生産にわたって摂取すると健康寿命に重要な認知能力、歩行能力などがどうなるか調べた結果です。もち性大麦の生涯摂取によりこれらの能力の老化を遅らせるなど、新たな効果を確認することができました。

22I-am02

国産もち麦「もっちりぼし」の長期摂取が健康寿命に与える影響

環境・衛生系

衛生化学・公衆衛生学

その他

加熱式タバコ、電子タバコは安全なのか!?

〔千葉大院薬〕 野口 真由美

最近、有害物質の発生が少ないとされる非燃焼式タバコが普及し始めています。私たちは、これらの中で、加熱式タバコ、電子タバコから発生する化学物質の分析法を開発し、検討を行いました。その結果、電子タバコ等の非燃焼式タバコに含まれる毒性の低いプロピレングリコール、グリセロールが過度に加熱されることにより、有害なアルデヒド類やエポキシ類が生成することを発見しました。

21PO-pm267

加熱式タバコ、電子タバコ等非燃焼式タバコから発生する化学物質の分析

環境・衛生系

環境科学

大気汚染・室内環境

大気中のエンドトキシンは喘息と関連するか

〔京都薬大〕 石田 朋子

細菌の外膜成分であるエンドトキシン(ED)は喘息の増悪因子です。私たちは九州北部において一年間にわたって大気中のEDの濃度と喘息発作の救急外来受診者数を調べ、各種気象条件を考慮してそれらの関連性を解析しました。その結果、EDの濃度と小児の喘息発作患者数は共に秋季に増加し、気象条件を考慮してもEDの濃度と小児喘息発作患者数の間に有意な関連性があることが分かりました。

22I-pm10S

九州北部における大気中のエンドトキシン、タンパク質等と喘息発作との関連性について

環境・衛生系

社会と薬学

その他

かんぴょうパウダーは生活習慣病を予防する

〔国際医福大薬〕 小栗 也実

終末糖化産物(AGEs)は加齢と共に体内の蓄積量が増え、糖尿病や動脈硬化などの生活習慣病の要因といわれています。本研究では、高齢者に食物繊維が豊富な食品であるかんぴょうの粉末を食事に混ぜて摂取してもらったところ、血糖値とAGE量が低下し、その程度は食事が管理された介護施設居住者で顕著でした。かんぴょうパウダーは毎日手軽に摂取でき、生活習慣病の予防・改善が期待できます。

21PO-am256

高齢者を対象としたかんぴょうパウダー摂取による生活習慣病予防及び改善効果 —終末糖化産物(AGEs)を指標とした検討—

医療系

薬剤学

トランスポーター(SLC)

iPS由来の腸を使って薬の吸収を予測する

〔阪大院薬〕 河合 夏苗

ペプチドに似た構造の医薬品はヒト小腸に存在するPEPT1（ペプチドトランスポーターの一種）によって吸収されます。私たちはこのペプチド類似医薬品の小腸での吸収・代謝を評価可能なヒトiPS細胞由来小腸モデルを開発しました。同時にPEPT1を欠損したヒトiPS細胞から小腸モデルを作製し、ペプチド類似医薬品の小腸における吸収機構研究への利用について検討しました。

22P-am05S

SLC15A1/PEPT1欠損ヒトiPS細胞由来小腸上皮細胞の作製

医療系

薬剤学

薬物間相互作用

お薬の飲み合わせ～ジェネリックでも同じ?～

〔京都薬大〕 瀬良 郁実

先発医薬品とジェネリック医薬品は有効成分が同じなので、有効性や安全性に違いはありません。しかし、含まれている添加物が違うので、他のお薬との飲み合わせによる影響は異なるかもしれません。そこで、お薬を服用した後の消化管内で生じる飲み合わせの影響を色々な製薬会社のお薬で検討しました。その結果、製薬会社が異なると飲み合わせの影響が僅かに異なる可能性が示されました。

23PO-am342

ロスバスタチン製剤の経細胞輸送に及ぼす酸化マグネシウム製剤の影響 —先発医薬品と後発医薬品との比—

医療系

製剤学

がん治療DDS

整腸以外にも?ビフィズス菌をがんの薬に!

〔帝京平成大薬〕 加藤 雅和

ヨーグルトに含まれるビフィズス菌には、おなかの調子を整える以外にも、驚くべき性質があります。血管内に注射されたビフィズス菌は、がん組織に多く集まるのです。私たちは、このビフィズス菌の性質を、がん組織へ抗がん剤を運ぶための乗り物“DDSキャリアー”として応用する研究を進めています。本研究では、ビフィズス菌のがん組織への送達効率を向上する方法について検討しました。

21PO-am319S

EPR 効果増強剤によるビフィズス菌腫瘍内集積数の増大

医療系

製剤学

新規剤形

就寝中に目を修復!「塗る目薬」の開発

〔近畿大薬〕 長井 紀章

通常の点眼薬では、点眼後の涙液中の薬物濃度の維持時間が1時間未満と短いことが知られています。私たちは、眼球の表面状態を改善する医薬品レバミピドの結晶を1mmの1万分の1以下まで超微細化することによって、瞼に塗るだけで持続的に薬物を涙へ送り、長時間に渡って薬物濃度を維持できる新技術を確立しました。本技術により、現代人の疲れ目改善に寄与できると期待しています。

22PO-am299

就寝中に目を修復!持続性薬物供給システムの開発
: ナノ結晶技術はドライアイを改善する

医療系

医療薬学

新薬・剤形の開発

アスピリンの消化管障害克服への挑戦!

〔東京理大薬〕 坂本 菜美紀

低用量アスピリンは、血栓形成予防目的で広く使用されている薬ですが、市場に存在する剤形としては内服用錠剤のみであり、消化管粘膜に直接アスピリンが触れることで副作用として消化管粘膜障害を引き起こすことが問題となっています。私たちは、抗血栓療法に適応可能な経皮吸収型アスピリンパッチを開発し、動物実験においてアスピリンによる消化器障害を顕著に軽減させることを見出しました。

21PO-am328S

抗血小板作用を目的としたアスピリンパッチの開発
—消化性潰瘍および経口NSAIDsとの相互作用の回避についての検討—

| | | |
|-----|------|------|
| 医療系 | 医療薬学 | 製剤試験 |
|-----|------|------|

センサーでわかる?クスリのおいしい飲み方

〔静岡県大薬〕 外山 真衣

子どもに処方された粉薬を飲みやすくするために、家庭にある飲食物と混ぜることがあります。しかし、薬によってはおいしいジュースと混ぜても味が悪くなる組み合わせもあります。それらの組み合わせをひとつずつヒトが味見をするのは大変です。この研究では「電子味覚システム」という味を測定するハイテクセンサーを使って、粉薬と飲食物のおいしい組み合わせを予測できるか探りました。

| | |
|-------------|----------------------------------|
| 21PO-am338S | 飲食物と混合した粉末製剤の服用性に対する電子味覚システムの予測性 |
|-------------|----------------------------------|

| | | |
|-----|------|-----|
| 医療系 | 医療薬学 | その他 |
|-----|------|-----|

実際にくすりはどのくらい捨てられている?

〔東北福祉大健康/せんだんホスピタル〕 小野木 弘志

くすりの飲み残しや多剤併用、いわゆるポリファーマシーによる健康被害などは報告されていますが、「実際に捨てられるくすり」の報告はあまりありません。本研究では、病棟で捨てられるくすりの種類や要因を調べたところ、様々な理由でくすりが捨てられていました。薬剤師は様々な患者情報を収集・共有することで、捨てられるくすりを減らす努力が必要だと考えられます。

| | |
|------------|---------------------|
| 22PO-pm342 | 精神科入院病棟における廃棄薬の要因検討 |
|------------|---------------------|

| | | |
|-----|------|-------|
| 医療系 | 社会薬学 | 医療経済学 |
|-----|------|-------|

高額な抗がん剤の廃棄量を減らすためには

〔広島大病院薬〕 本永 正矩

わが国では年間738億円もの抗がん剤が捨てられていると言われていています。国民医療費が高騰している現在、限られた医療資源を有効利用する必要に迫られています。本研究では、本院で使用されている5つの高額抗がん剤の投与量を算出する時に、「体の大きさ」に加えて「端数の処理」を加味することで、年間約2000万円の抗がん剤の廃棄を無くすることができることを明らかにしました。

| | |
|------------|--|
| 23PO-am427 | 外来抗がん剤注射のDose banding導入シミュレーションによる医療経済効果 |
|------------|--|

医療系

医療薬科学

がん

抗がん剤の副作用である手足症候群の回避へ

〔九大院薬〕 山中 捺未

一部の抗がん剤は副作用として、手足症候群という皮膚障害を起こし、患者さんの負担になるばかりか治療の妨げにもなり、臨床現場で問題となっています。しかし、この手足症候群の有効な予防法は、現時点では十分に確立されていません。そこで、私たちは抗がん剤の手足症候群発症のメカニズムを解明し、新規の有効な対応策の確立を目指して、動物モデルによる研究を展開しています。

22PO-pm364

カペシタビン誘発手足症候群の対応策を確立するための動物モデルの開発

医療系

医療薬科学

がん

癌ゲノミクスデータで臨床と基礎をつなぐ！

〔東京理大薬〕 本村 瞳

乳癌は日本人女性の罹患率が高い癌です。私たちは、乳癌ゲノミクスデータ解析により Stage III - IV 乳癌において PKC λ と Glyoxalase (GLO) 1 共発現患者は予後不良であり、PKC λ と GLO 1 の阻害剤の併用は効率的に乳癌細胞の増殖・腫瘍形成を抑制することを明らかにしました。PKC λ と GLO1 共発現は Stage III - IV 乳癌の予後予測および分子標的としての有用であると期待できます。

22J-pm03S

PKC λ と GLO1 過剰発現乳癌患者は予後不良を示し、両分子の阻害剤の併用は乳癌細胞の生存・tumorsphere 形成を抑制した

その他

薬学教育

学部導入教育

規則正しい生活習慣で成績アップを狙おう！

〔大阪大谷大薬〕 朴 炫宣

近年のスマートフォンの普及などにより学生の睡眠時間が短縮化され、生活習慣の乱れによる学業成績の低下が懸念されています。本学の薬学生を対象に生活習慣と学業成績との相関について調べたところ、毎日「6～8時間の睡眠」をとり、「概ね規則正しい」生活習慣を持っている学生の成績が良好であることがわかりました。本発表では、生活習慣と学修意欲との関連についても紹介します。

21PO-pm407

薬学生の生活時間と成績との関連(1)

その他

薬学教育

学部専門教育

「ほめ」は成績向上に寄与します

〔名城大薬〕 武田 直仁

学習動機づけが成績に与える影響について研究を行った結果、成績上位の学生程ほめられた経験が多く、“行動へのほめ”は学習意欲を高めるために役立つことが明らかとなりました。また、成績やテストの結果などをほめるよりも学生の努力などについてほめることが重要であることがわかりました。

23I-pm05

「ほめ」が薬学生の学習動機づけに及ぼす影響

その他

薬学史とその他

薬学史

我が国のペニシリン製造の夜明け

〔日本大薬〕 石毛 久美子

千葉県香取市佐原に代々続くオガワ薬局の前当主（薬剤師・現当主の父）は、第二次世界大戦中、陸軍薬剤少尉として千葉陸軍病院（現・国立病院機構千葉医療センター）でペニシリン製造に携わっており、薬局には自ら記したとされる「ペニシリン Penicillin（碧素）ニ就テ」（昭和20年9月）が保管されています。発表では、記録の内容とともに現当主が父親から聞いた話を紹介します。

22PO-pm398

佐原のオガワ薬局の保存資料からみた第二次世界大戦中のペニシリン製造

日本薬学会第139年会講演ハイライト

2019年3月5日発行 限定配布物

発行・編集 公益社団法人日本薬学会 広報委員会, 第139年会組織委員会

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-12-15

TEL●(03)3406-3321 FAX●(03)3498-1835

URL●https://www.pharm.or.jp/nenkai/139highlight1_index.pdf



公益社団法人 日本薬学会

